

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和4年度 岐阜県立坂下高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年1月27日(金) 書面開催
- 3 参加者

会長	小幡 隆徳	坂下まちづくり協議会副会長
副会長	吉村 俊廣	やさか観光協会会長
委員	氷室 茂	本校活性化協議会会長
	村田 純一	坂下公民館長
	尾石 光正	坂下中学校長
	竹入 康治	坂下小学校長
	山内 尚子	同窓会会長
	嶋倉 陽子	中津川市社会福祉協議会地域福祉課長
	桂川 容子	Charm Mates 会員
	伊藤 彩子	保護者代表
オブザーバー	森 益基	岐阜県議会議員
	成瀬 博明	中津川商工会議所 専務理事
	岩久 義和	中津川市教育長
	伊藤 恵之	中津川市定住推進部長
	廣瀬 竜也	坂下総合事務所長
学校職員	中村 浩一	校長
	田並 千穂	教頭
	古田 和幸	事務長
	板津 裕也	教務主任
	中田 和寿	生徒指導部長
	三輪 祐太	進路指導部長
	林 尚志	地域連携担当

#### 4 会議の概要(協議事項)

- (1) 令和4年度自己評価について
- (2) 「咲明日高校マルシェ」事後評価について
- (3) 令和4年度取組のまとめと課題について

【(1)～(3)についての委員・オブザーバーの意見】

- 意見1：生徒一人一人の学力や悩み、進路希望に対して適切にきめ細やかに指導がされている。地域の人材を活かしたり、地域に出る授業を重ねたりすることで、次第に地域連携に厚みが増してくるであろう。
- 意見2：入学できて良かった、と回答する生徒が9割近くあることはすばらしい。あとの1割の生徒についても、温かくきめ細かく指導を継続してもらいたい。また、地元への就職率が8割を超えていることは、地域住民としてはとてもありがたい。進学する生徒もぜひ地元に戻ってきて活躍することを期待している。
- 意見3：「総合的な探究の時間」の評価が伸びているが、本校が「地域探究」に重点を置いていることが伝わってくる。「地域探究科」の今年の1年生が2～3年生になり、近隣のいろいろな分野の専門の方と関わりながら探究を深めていくのを楽しみにしている。
- 意見4：個々の生徒に寄り添い、いろいろな工夫や改善をしているところが評価できる。生徒指導面においても、生徒がSOSを出しやすい体制が取られていることが伝わる。学力の二極化は難しい問題だが、個別指導の工夫や家庭との連携も大切であろう。
- 意見5：本校の特色をいろいろな方法で発信していることがわかる。結果が出るまでには時間がかかるかもしれないが、地道に取り組み、生徒確保に繋げてほしい。また、地元へ就職する生徒が多いことはありがたい。来年度から始まるデュアルシステムにも期待している。
- 意見6：本校の取組はユニークなものが多く、地域との連携が多いことも特徴である。地域が求める有用な人材を輩出しており、更なる進学希望者の増加にも期待する。高校生活の魅力と共に、卒業後の活躍やライフスタイルをイメージしてもらえるよう、卒業生の協力も得ながら広報できるとよい。
- 意見7：インスタグラムは分かりやすく良い取組である。何科の取組なのか分かりやすくすると、更に伝わりやすい。マルシェは生徒も企画運営に関わり、最終的には自主運営ができるようになるとよい。マルシェにより、学校の魅力が上がると思う。
- 意見8：生徒や保護者へのアンケート結果から、本校の指導に対しての満足度が覗える。「咲明日高校マルシェ」は学校を活性化させるイベントであった。
- 意見9：マルシェでは生徒たちがとても頑張っていた。その取組をぜひ多くの中学生に知ってもらい、本校を志望する生徒が増えると良い。
- 意見10：本校の学習指導や生徒指導の充実が、出口としての進学や就職に繋がっていることがよくわかる。今後も本校の生徒が自分の学校に誇りを持てるようになることを願っている。また「咲明日高校マルシェ」では生徒が丁寧に来客に対応できていた。ただ、生徒の発表の場がもっとあるとよかった。行事を通して生徒がどのように成長したかを詳しく知りたい。
- 意見11：現在の社会では、マーケティングやプレゼンに関する能力が必要とされる。本校もマルシェを利用し、ユニークな特産品の開発や集客戦略を生徒に考えさせる機会にできるとよい。

意見 12：地域探究科の2年目に期待している。福祉科の入学志望者が減少していることに危機感を感じる。本校の魅力をどんどん発信し、志望者の増加に繋げてほしい。

意見 13：身だしなみの指導が行き届いているのは評価できる。校外ですれ違っても気持ちの良い挨拶をする生徒が多い。

意見 14：コロナ禍で外部との接触が難しい中、社協との連携等を努力して取り組んだことはありがたい。福祉科生徒の進路として、介護職だけではないことをPRしていけると志望者の増加に繋がるのではないかと感じる。

## 5 会議のまとめ

- (1) 自己評価については、どの分野においてもきめ細やかな指導に対する評価があった。また、地域で活躍する人材の輩出への評価と更なる期待もあった。
- (2) 「咲明日高校マルシェ」においては、生徒の取組や当日の活気について、多くの委員に高く評価していただいた。今年度の反省を活かしながら、ぜひ来年度以降も続けてほしいという意見がほとんどであった。
- (3) 地域との連携についても、「地域探究科」の2年目に期待する意見が多かった。来年度の「デュアルシステム」についても期待の声が多く、地域に支えられてのカリキュラムを意義深いものにする必要がある。
- (4) 広報については、来年度も坂下高校の魅力をさらに外部に発信し、特に「福祉科」の入学希望者を増やすことが求められる。